

## 教育実践総合センター平成18年度活動概要

### 1. 構成員

センター長（兼任）

教授 若元澄男

専任教員

教育実践研究開発部門

教授 山下芳樹 助教授 神山貴弥

学校教育相談実践部門

教授 岡直樹 助教授 栗原慎二

客員教員（年度内の4期を分任）

林田正彦・齋藤美由紀・森近利寿・

半田明美（いずれも広島県立教育センター）

事務補佐員 関 智子

### 2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

#### (1) 第9回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「教師に何が求められているか - 世界の教員養成制度改革から - 」

期日：平成18年6月24日（土）

場所：広島大学 経済学部155教室

話題提供者：樋口 聡

（広島大学大学院教育学研究科・教授）

神山 貴弥

（広島大学大学院教育学研究科・助教授）

山崎 敬人

（広島大学大学院教育学研究科・助教授）

司 会：鈴木由美子

（広島大学大学院教育学研究科・助教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：50名

《話題提供者からスイス、フィンランドの教員養成の現状が紹介されるとともに、現在、広島大学の初等教員養成において目指そうとしている改革の方向性について提案があった。これらを通して、現在の教師に何が求められているかの討論が行われた。》

#### (2) 第1回エキスパート研修講演会

（日本ピア・サポート研究会との共催，広島大学大学院教育学研究科「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の一環事業）

「ピア・サポート研修・ワークショップin 広島」

期日：平成18年8月22日（火）・23日（水）

8月22日（火）

・広島県内のピア・サポートの実践発表（6グループ）

・WS「ピア・サポートを成功させるための教師のリーダーシップ」

8月23日（水）

・WS「ケルシー中高等学校のピア・サポート・プログラム（理論編）」

・WS「ケルシー中高等学校のピア・サポート・プログラム（演習編）」

場所：広島市東区民文化センター（22日）

広島大学東千田総合校舎（23日）

発表者：Trevor Cole, Ph.D

（元カナダ・ビクトリア大学教授）

Mary Kirchner, M.Ed. (Kelsey Secondary School・School Counselor)

西山久子（岡山学芸館高等学校・

専任スクールカウンセラー）

参加者：22日：113名，23日：80名

《多様なピア・サポートプログラムの実践を紹介するとともに、教師のリーダーシップと実際のトレーニングについての理論的研修と体験的研修を行い、プログラムを成功させるために必要な要素を多面的に学ぶ有益な研修となった。》

#### (3) 第2回エキスパート研修講演会

（広島大学大学院教育学研究科「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の一環事業）

「授業づくりの原理」

期日：平成18年11月8日（水）

場所：広島大学教育学部第1会議室

対象：研修教員，研修支援教員，指導教員，広島県内の現職教員

参加者数：約50名

《プログラムの一環として、「授業づくりの原理」をテーマに研修会が開催された。研修会の前半は、

「学習意欲と評価」について、森 敏昭広島大学大学院教育学研究科教授の講演と質疑応答、後半は「わかる授業」について、岡 直樹広島大学大学院教育学研究科教授の講演と質疑応答が行われた。》

#### (4) 第10回学習科学広島フォーラム

(広島大学大学院教育学研究科学習開発講座との共催)

「道徳教育・生徒指導の新しい姿を求めて “子どものための哲学” “イギリスの人格・価値教育 (PSE)” “アメリカの人格教育” から学ぶ - 」

期日：平成 18 年 12 月 9 日 (土)

場所：広島大学東千田キャンパス 501 教室

話題提供者：K.L. ファン・デル・レーウ

(広島大学大学院教育学研究科・客員教授)  
青木多寿子

(広島大学大学院教育学研究科・助教授)  
鈴木由美子

(広島大学大学院教育学研究科・助教授)

コーディネーター：樋口 聡

(広島大学大学院教育学研究科・教授)

対象：教育関係者全般

参加者数：50 名

《「子どものための哲学」「アメリカの人格教育」「イギリスの人格・価値教育」についての実践紹介があり、それに基づいて道徳教育・生徒指導の新しいあり方について討議を行った。》

#### (5) 教育実践力開発セミナー

「次世代の子どもたちのために - なぜ、100km完歩出来るのか? - 」

期日：平成 18 年 12 月 21 日 (木)

場所：教育学部 203 講義室

講師：柿本和彦

(おのみち 100 km 徒歩の旅実行委員会委員長)

対象：教員をめざす学部生・大学院生

参加者数：80 名

《個人の目標と組織の目標の違い(いかなる関係にあるべきか?)、子どもたちの幸せのために如何に行動したらいいのか? 成長するために必要なものは何なのか? 使命感とは? 等々を問い掛けながら、教員としてまたリーダーとしての実践力が提示された。》

#### (6) 教育相談実技研修会

「子どものサインをキャッチする - 感受性トレーニングと応答技法」

日時：平成19年 3 月 23 日 (土)

場所：教育学部 L304

対象：教職志望の学生・院生、現職教員

講師：栗原慎二

(広島大学大学院教育学研究科・助教授)

参加者数：24 名

《一般的な教育相談の研修会では実施されない感受性訓練をワークショップ形式で集中的に体験する研修会となった。》

### 3. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談、認知カウンセリング、学習支援、アセスメント等に関する講演や演習の指導

期間：通年 (122 回)

対象：主に教員、保護者

人数：約 6800 人

「コミュニケーション能力を育む-学校における望ましい人間関係のために-」平成 18 年度中学校初任者研修講座, 5/11, 41 名

「ピア・サポートの理論と実際」静岡県高等学校教育相談研究会, 5/18, 100 名

「親子間・家族内のコミュニケーション」広島市 PTA 協議会・広島市南区 PTA 連合会, 6/17, 750 名

「ブリーフセラピーを用いた問題行動への対応」独立行政法人教員研修センター生徒指導者養成研修, 7/31, 150 名

「アンケート調査法の基礎 アンケート項目作成と集計・処理の基礎」東広島市教育委員会, 8/7, 25 名

「学びについて - 認知心理学からの提言 - 」広島市立早稲田中学校校内研修会, 8/18, 15 名

「コミュニケーションを見直す」広島県高等学校 PTA 連合会, 9/10, 850 名

「学校教育相談コーディネーター養成」講座「心理教育的アセスメント」「グループワークの実際」広島県立教育センター, 9/28, 60 名

「誰もが身に付けたい教育相談の基礎理論と方法」北海道立教育研究所, 10/2, 20 名

「いわゆる学級崩壊への理解と対応」講座「児童生徒の社会性を育む生徒指導の実際」広島県立

- 教育センター，10/26，50名
- 「予防的・開発的カウンセリングの理論と実際」  
福井県教育研究所，11/15，80名
- 「不登校支援 - コミュニケーションの視点から」  
広島県中学校教育研究会，11/17，100名
- 「学習のつまずきと学習支援(1)」教育セミナー  
子ども教育支援財団，12/10，15名
- 「人との関わりを大切にする児童・生徒の育成 -  
ピア・サポートを用いた社会性の育成」広島市  
立二葉中学校区人権教育総合推進地域事業研究  
発表会記念講演，1/19，425名
- 「わかる授業と学習意欲について」 東広島市立  
三永小学校校内研修会，1/30，20名
- 「学習のつまずきと学習支援(2)」教育セミナー  
子ども教育支援財団，2/4，15名
- 「数学の学力向上へ向けて - 心理学からのアプロ  
ーチ - 」 広島市立観音中学校校内研修会，  
3/15，20名

他

#### 4. 研究活動

##### A. センタープロジェクト研究

- (1) 研究科長裁量経費による研究（研究代表者・  
分担者）「学校及び児童生徒支援活動を通して  
育成される教師としての臨床的指導力に関する  
研究」
- (2) 広島県立教育センターとの共同研究「児童生  
徒の学級への適応を促す生徒指導の在り方に関  
する研究 - 一次的アプローチにおける工夫・改  
善を通して - 」
- (3) 広島市教育委員会との共同研究「予防的生徒  
指導推進事業の取組」

##### B. 附属学校・公立学校との共同研究

- (1) 文部科学省指定「人権教育総合推進事業」：  
広島市立二葉中学校とその学区内4小学校との  
共同研究「人との関わりを大切にする児童・生  
徒の育成 - ピア・サポートを用いた社会性の育  
成 - 」
- (2) 附属東雲中学校との共同研究（研究分担者）  
「「人間力」豊かな生徒を育てる学校教育の創  
造(1) - 生きてはたらく学力を伸長する教科・  
領域の取り組み - 」
- (3) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費によ

- る研究（研究代表者・分担者）「かかわる力を  
育む幼小中一貫の道徳教育カリキュラム開発の  
ための基礎研究(2)」
- (4) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費によ  
る研究（研究分担者）「幼小中一貫教育におけ  
る国際コミュニケーション科の評価方法に関す  
る研究 - ポートフォリオ作品における具体的な  
評価規準の開発 - 」
- (5) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費によ  
る研究（研究分担者）「児童・生徒の情報リテ  
ラシーの認知的基盤に関する研究 - 情報モラル  
課題と情報活用能力・批判的試行態度の関連 - 」

##### C. その他外部資金導入による研究

- (1) 独立行政法人教員研修センター・平成18年度  
教育課題研修モデルカリキュラム開発プログラ  
ム（研究代表者・分担者）「教員研修モデルカ  
リキュラム開発プログラム - 三者協働手づくり  
プログラム - 」
- (2) 米日財団奨学寄付金研究（研究分担者）「グ  
ローバル・パートナーシップを推進するための  
人材育成およびプログラム開発 - 広島大学グロ  
ーバル・パートナーシップ・スクール・センタ  
ー設立に向けて - 」
- (3) マツダ研究助成（研究分担者）「教員志望の  
大学生の学びのコミュニケーション形成の支援  
に関する研究 - 大学を利用した教育的地域貢献  
活動の実践と評価 - 」

#### 5. 教育・社会貢献事業

##### (1) 学校コンサルテーション活動

概要：公立学校での生徒指導・教育相談に関する  
コンサルテーション

時期：通年（15回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約30名

##### (2) 地域教育実践ボランティアネットワーク事業

本事業は、「教師に必要な幅広い社会的視野と  
実践的指導力の育成」および「市民としての自覚  
形成と街づくりへの参画」を目的として、学校や  
各種施設等からの学生ボランティア派遣の要請に  
こたえ、希望する学生を募集し、派遣する制度で  
ある。本年度は、9件の派遣要請を受け、延べ93

名の学生を派遣した。

### (3)フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 10 名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織し、その運営にあっている。

#### 活動の趣旨

「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成9年度より活動を開始して、18年度は10年目である。

#### 活動の形態

18年度は「地域教育実践」の授業として通年で開講した。

#### 実施内容

1) 活動は、H18.4 から H19.2 にかけて、月例活動8回、宿泊研修(1泊2日)1回、大学内シンポジウム1回を行った。月例活動の活動時間帯は、午前10時から午後4時。

2) 参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約100名。児童は東広島市立小学校37校から募集した144名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする20名。

3) 児童9名と学生5名で1班とし、16班を編成し、芸術(4班)、遊び(4班)、ギネス(4班)、四季(4班)の4グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

### (4)にこにこルーム - 学習相談 -

#### 活動内容

心理学を基盤とする心理教育的援助活動の一環として、算数や数学が分からなくて困っている子どもや、学習意欲を失っている子どもに対して、個別に相談にのり、指導や援助を行うことにより、わかる体験をすること、算数・数学に対する自信の育成、学習方法などの改善などをはかり、算数・数学のつまずきを解消し、また学習意欲を高めることを目的として認知カウンセリングを行っている。そして、小学生にはこのような個別指導に加えて遊びの時間を設け、集団による活動も行っている。遊びの時間は、自分を表現することや、

仲間とのかかわり、あるいは仲間づくりを助けるねらいも持つものである。なお、にこにこルームでは、小学生や保護者にもわかりやすい名称ということで、この認知カウンセリングを「学習カウンセリング」と呼んでいる。

#### 今年度の活動

今年度の学習カウンセリングは、11月から2月へかけて、週1回を原則として行った。東広島市内の小学校3校(西条小学校、三ツ城小学校、郷田小学校)で、4年生以上の児童に対し募集の案内を配布した。そして電話による受付を行い、応募者から10名の小学生を抽選で選んだ。この10名を対象に毎水曜日、17時から19時まで子どもたちへの援助を行った。そして毎回、22時までケース検討会を実施し、学生の指導を行った。

なお、10名の内1名については、現在も継続して週1回援助を行っている。

#### 学習カウンセリングの評価

##### ・児童の正答率の変化

計算問題に対する正答率

事前テスト 75.6 % 事後テスト 92.3 %

文章題に対する正答率

事前テスト 50.0 % 事後テスト 80.8 %

##### ・保護者の評価(満足度) 9.00点(10点満点)

##### ・学生の自己評価(自由記述)

「勉強で困った記憶がない。そのため余計に最初は小学生がどんなところでつまずくのか、何がわからないのかを考えるのが難しかった。また、文章題がわからないのを、何がどうわからないのかわからなかったが、それが感覚的にわかるようになった。」「子どもの話を聞くことの大切さを知った。」「子どもの言葉を待つことができるようになった。」「子どもに話させることができる言葉かけを学んだ。」

以上のように、参加した児童の正答率は計算問題についても文章題についても向上しており、学習カウンセリングが効果的だったことを示している。そして、保護者からも非常に高い評価を得ている。一方学生は、実際の支援をとおして子どもを理解する力を向上させ、支援スキルを獲得していることがうかがえる。

### (5)学外から委嘱された委員等

- ・日本教育心理学会研究委員会委員
- ・『教育心理学研究』常任編集委員

- ・福津市学力向上推進委員会委員
- ・尾三地区キャリア教育推進委員会委員
- ・東広島市青少年問題協議会委員
- ・東広島市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会委員
- ・東広島地域キャリア教育推進委員会委員

## 6. 研究紀要の刊行

学校教育実践学研究（第13巻）の刊行